

くらしの目線で市政を変える

こんにちは
日本共産党

市会議員
西野さち子です



いまこそ 国民が主人公の 希望ある日本を

政治を
変えて

消費税増税ストップ
原発ゼロの社会を一緒に

日本共産党



こくた恵二衆院議員、石村かず子さんと醍醐駅前街頭演説に立つ西野さち子市議

3月18日の午後、穀田恵二衆議員とともに、伏見区では3か所で街頭宣伝をしました。石村かず子3区予定候補は「消費税の増税をする前にすべきことが有る。そうすれば増税はしなくても大丈夫」と訴えました。西野さち子市会議員も「不公平な税制の消費税の増税は反対です」と訴えました。

穀田衆議員はTVタックルの収録の様子を報告しながら「電力関係の企業や労組から電気料金値上げの為の手付金とも言ふべきものが、民主党に1億2千万円、自民党に4億円も献金されている。それを全部返したらどうか。と言うと民主も自民もだんまりだった」と原発利益共同体への批判を行いました。的を得た報告に一齐に拍手が起こ

りました。政治を変え、消費税増税ストップ、原発ゼロの社会を一緒につくりましょう。

市政報告

事故続きの焼却灰溶融施設に予算計上できず

来年度予算が議会で審議中

ですが、この間、何度も事故を起こしている焼却灰溶融施設について、京都市は当初予算に運転経費を計上できませんでした。今年度予算も15億2千万円を補正で減額し、結局、2年間の予算がないという異常事態です。昨年、1000度の灰の塊がプールに落下して、職員がやけどを負う事故が発生してから約半年が経ちますが、いまだに試運転の目途さえ経っていません。こんな欠陥商品は住友重機械工業に返して、稼働は中止すべきです。西野市議は「溶融施設を中止すれば運転経費の560億円を国保料の値下げなどに使える。税金のムダ使いをやめるべきだ」と市長に質しました。



溶融炉を調査する党市議団(右から2人目が西野市議)

東部山間埋め立て地(エコランド音羽の杜)はもっと使える

これまで京都市は、「溶融炉がなければ50年、溶融炉を使えば70年」埋め立てられると説明してきました。ところが、今回京都市に要求した資料でゴミ半減計画の終わる2020年以後はゴミが減らないという計算で、エコランドの利用計画が立てられていることが分かりました。ある一定まで減れば、後は減る率は少なくとも、減らせるのではないのでしょうか。焼却灰溶融施設の必要性を説明するための作務的な数字は許せません。西野さち子市議は「溶融炉がなければ50年しか使えないと言う京都市の説明はおかしい。ごまかしだ。」と市長に質問しました。

市内高速道路未着工3路線は廃止を!

市民の声に押されて、市長選挙で「廃止の方向」と言わざるをえなかった市内高速道路の未着工3路線。着工すれば市民への新たな負担が増えます。市長は「乾いたタオルをしぼる様な行政改革をする」と市民への負担を押しつけながら、1500万円の調査費を計上していることについて、西野市議は「廃止なら、1500万円の調査費は使う必要がない。」と求めました。



